

## 平成21年度 滋賀県立高等学校入学者選抜に関するまとめ

平成21年度滋賀県立高等学校入学者選抜において、推薦選抜実施校は、定時制1校を含む37校44学科、特色選抜実施校は12校15学科であった。

推薦選抜、特色選抜あわせて、6,055名が出願し、3,051名が入学許可予定者となった。一般選抜では、学力検査の受検倍率が1.11倍であった。また、出願変更率は7.7%であった。

以下 ( ) は前年度

### < 推薦選抜 >

- 1 出願状況  
募集枠 2,410名  
出願者数 2,495名 出願倍率 1.04倍(1.14倍)
- 2 受検状況および入学許可予定者  
受検者数 2,495名  
入学許可予定者数 2,147名 合格率 86.1%(79.6%)

### < 特色選抜 >

- 1 出願状況  
募集枠 904名  
出願者数 3,560名 出願倍率 3.94倍(3.14倍)
- 2 受検状況および入学許可予定者  
受検者数 3,556名  
入学許可予定者数 904名 合格率 25.4%(31.9%)

### < 一般選抜・学力検査 >

- 1 出願状況  
出願者数 8,177名(8,345名) 確定出願者数 8,125名(8,297名)  
確定出願倍率  
全日制1.13倍(1.13倍) 定時制0.76倍(0.69倍) 全・定あわせて1.12倍(1.11倍)
- 2 出願変更状況  
出願変更者数 631名 このうち52名は出願辞退者  
出願変更率 7.7%(7.7%)  
(1) 学科別出願変更率では、農業学科が11.0%と最も高かった。  
(前年度は工業学科の14.0%)  
(2) 学校出願を除く普通科の出願変更者数 386名 出願変更率 7.7%(6.8%)
- 3 受検状況  
受検者数 8,095名  
受検倍率 1.11倍(1.11倍)  
全日制7,890名 1.13倍(1.12倍) 定時制205名 0.73倍(0.66倍)
- 4 入学許可予定者  
(1) 学力検査による入学許可予定者数 7,075名 合格率87.4%(88.3%)  
(2) 入学許可予定者数が募集定員に満たなかった学校および科 18校27科(13校14科)

### < 二次選抜 >

- 1 二次選抜募集校・科および募集定員  
全日制13校21科 104名、定時制 5校6科 90名、全・定あわせて 18校27科194名
- 2 出願状況 出願者数 161名 出願倍率 0.83倍(1.11倍)
- 3 受検状況 受検者数 158名 受検倍率 0.81倍(1.05倍)
- 4 入学許可予定者 入学許可予定者数 102名 合格率 64.6%(64.8%)

### < 入学許可予定者総数および実入学者数 >

- 1 入学許可予定者総数 10,228名
- 2 実入学者数 10,225名
- 3 定員充足率 99.1%(99.4%)

平成 2 1 年度

滋賀県立高等学校入学者選抜結果のまとめ

( 全 日 制 ・ 定 時 制 ・ 通 信 制 )

滋 賀 県 教 育 委 員 会

[ 全日制の課程および定時制の課程 ]

1 募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

(1) 推薦選抜、特色選抜の結果

表1は推薦選抜、特色選抜の出願者数、入学許可予定者数等を示したものである。

昨年度、特色選抜の実施校であった彦根工業高等学校（工業学科）、八幡工業高等学校（工業学科）、長浜高等学校（普通科、福祉学科）の3校4学科が推薦選抜に変更した。この結果、推薦選抜実施校は、定時制1校を含む37校44学科（普通科21、専門学科17、総合学科6）であった。特色選抜実施校は、12校15学科（普通科12、専門学科3）であった。選抜は、同一日の2月5日に実施した。

推薦選抜出願者の中学校別内訳は、県内の中学校105校中100校（昨年度105校中101校）、県外の中学校は23校であった。出願者数は、普通科で1,010人（昨年度943人）、農業学科で244人（昨年度263人）、工業学科で349人（昨年度193人）、商業学科で284人（昨年度303人）、家庭学科で92人（昨年度106人）、体育学科で44人（昨年度52人）、美術学科で32人（昨年度55人）、福祉学科で28人（昨年度 特色選抜）、国際学科で37人（昨年度35人）、総合学科で375人（昨年度419人）であった。この結果、出願者数合計は、2,495人（昨年度2,369人）となり、出願倍率（募集枠に対する出願者の割合）は、推薦を実施した普通科では1.12倍（昨年度1.09倍）、専門学科で1.01倍（昨年度1.23倍）、総合学科では0.90倍（昨年度1.06倍）となり、実施学科全体では1.04倍（昨年度1.14倍）であった。この結果、2,147人が入学許可予定者となり、合格率は86.1%（昨年度79.6%）であった。

一方、特色選抜出願者の中学校別内訳は県内の中学校105校中101校（昨年度105校中103校）、県外の中学校は22校であった。出願者数は、普通科で3,429人（昨年度3,388人）、理数学科で93人（昨年度60人）、音楽学科で38人（昨年度42人）であった。この結果、出願者数合計は3,560人（昨年度3,930人）となり、出願倍率は、特色選抜を実施した普通科では4.06倍（昨年度3.61倍）、専門学科では2.18倍（昨年度1.74倍）となり、実施学科全体では3.94倍（昨年度3.14倍）であった。この結果、904人が入学許可予定者となり、合格率は25.4%（昨年度31.9%）であった。

結果、推薦選抜、特色選抜合わせて3,051人が入学許可予定者となり、合格率は50.4%（昨年度49.9%）であった。

表1 推薦選抜、特色選抜出願者数・入学許可予定者数等

項目	募集定員	募集枠		出願者数 B	受検者数 B'	出願倍率 B/A'	許可予定者数 C	合格率 C/B' (%)	
		%	人数A'						
普通科	3,560	15~30	898	1,010	1,010	1.12	837	82.9	
推薦選抜	専門学科	農業	50	220	244	244	1.11	209	85.7
		工業	30~50	456	349	349	0.77	343	98.3
		商業	50	240	284	284	1.18	230	81.0
		家庭	35~40	60	92	92	1.53	50	54.3
		体育	75	30	44	44	1.47	30	68.2
		美術	75	30	32	32	1.07	30	93.8
		福祉	50	20	28	28	1.40	20	71.4
		国際	50	40	37	37	0.93	37	100.0
		小計	2,240		1,096	1,110	1,110	1.01	949
総合学科	1,080	30~40	416	375	375	0.90	361	96.3	
合計	6,880		2,410	2,495	2,495	1.04	2,147	86.1	
特色選抜	専門学科	普通科	20~30	844	3,429	3,426	4.06	844	24.6
		理数	50	40	93	93	2.33	40	43.0
		音楽	50	20	38	37	1.90	20	54.1
		小計	120	60	131	130	2.18	60	46.2
合計	3,240		904	3,560	3,556	3.94	904	25.4	
総合計	10,120		3,314	6,055	6,051	1.83	3,051	50.4	

(2) 一般選抜の結果

3月10日に実施した一般選抜は、学力検査定員7,269人に対し、確定出願者数は8,125人であり、確定出願倍率は1.12倍であった。この結果、7,075人が入学許可予定者となり、合格率は87.4%であった。

3月23日に実施した二次選抜は、二次選抜定員194人に対し、受検者数は158人であった。この結果、102人が入学許可予定者となり、合格率は64.6%であった。

表2 一般選抜出願者数・入学許可予定者数等

項目		年度	平成21年度	平成20年度
学力検査	学力検査定員 A		7,269	7,466
	出願者数		8,177	8,345
	確定出願者数 (倍率)		8,125 (1.12)	8,297 (1.11)
	受検者数 B (倍率)		8,095 (1.11)	8,259 (1.11)
	不合格者数		1,020	963
	入学許可予定者数 C		7,075	7,296
	合格率 C/B(%)		87.4	88.3
二次選抜	二次選抜定員 A-C		194	170
	出願者数		161	188
	受検者数 D (倍率)		158 (0.81)	179 (1.05)
	不合格者数		56	63
	入学許可予定者数 E		102	116
	合格率 E/D(%)		64.6	64.8
合計		7,177	7,412	

(3) 入学者選抜の結果

3月17日に発表した県立高等学校全日制および定時制の課程の入学許可予定者数は10,126人であり、その内、推薦選抜による者は2,147人、特色選抜による者は904人、一般選抜による入学許可予定者数は7,075人であった。また、3月26日に発表した二次選抜による入学許可予定者数は102人であり、県立高等学校全日制および定時制の入学許可予定者を合わせて10,228人となった。そのうち、全日制では募集定員10,040人に対して入学許可予定者数10,013人となった。

4月8日における県立高等学校全日制および定時制の課程の実入学者数は10,225人で、募集定員の99.1%(昨年度99.4%)となった。

表3 入学許可予定者数等

項目		年度	平成21年度			平成20年度
			全日制	定時制	合計	
県内中学校卒業予定者数					13,864	14,110
募集定員 A			10,040	280	10,320	10,600
推薦選抜入学許可予定者数			2,147	0	2,147	1,884
特色選抜入学許可予定者数			904	—	904	1,250
一般選抜入学許可予定者数			6,885	190	7,075	7,296
二次選抜入学許可予定者数			77	25	102	116
総計	入学許可予定者総数		10,013	215	10,228	10,546
	実入学者数 B				10,225	10,536
	定員充足率 B/A(%)				99.1	99.4

県内中学校卒業生数は各年度1月15日教育総務課調査による。

\* 中高一貫教育に係る併設型高等学校の特例による入学許可予定者は除く。

2 学科別の受検者数、入学許可予定者数等について

県立高等学校全日制および定時制の課程を合わせて学科別にみると表4のようになり、実入学者数が募集定員を下回ったのは、普通科をはじめ工業学科、商業学科、家庭学科、音楽学科、国際学科の6学科（昨年度5学科）であった。

表4 学科別の受検者・入学許可予定者数等

項目	学科	普通	農業	工業	商業	家庭	理数	体育	音楽	美術	福祉	国際	総合
募集定員	A	10,320	6,800	440	1,000	520	160	80	40	40	40	80	1,080
推薦 選抜	募集枠(人数)	2,410	898	220	456	240	60	—	30	—	30	20	40
	受検者数	B	2,495	1,010	244	349	284	92	—	44	—	32	28
	入学許可 予定者数	C	2,147	837	209	343	230	50	—	30	—	30	20
	合格率	C/B	86.1	82.9	85.7	98.3	81.0	54.3	—	68.2	—	93.8	71.4
特色 選抜	募集枠(人数)	904	844	—	—	—	—	40	—	20	—	—	—
	受検者数	D	3,556	3,426	—	—	—	—	93	—	37	—	—
	入学許可 予定者数	E	904	844	—	—	—	—	40	—	20	—	—
	合格率	E/D	25.4	24.6	—	—	—	—	43.0	—	54.1	—	—
一般 選 抜	学力検査定員												
	A-(C+E)	7,269	5,119	231	657	290	110	40	10	20	10	20	43
	確定出願者数	8,125	*4,973	267	570	262	120	**	**	17	**	20	48
	受検者数	F	8,095	*4,957	265	568	261	119	**	**	17	**	20
	入学許可 予定者数	G	7,075	5,065	231	557	258	109	40	10	17	7	20
	合格率	G/F	87.4	***	87.2	98.1	98.9	91.6	***	***	100	***	100
	二次選抜定員												
	A-(C+E)-G	194	54	—	100	32	1	—	—	3	3	—	1
	出願者数	161	62	—	66	30	—	—	—	—	3	—	—
	受検者数	H	158	61	—	64	30	—	—	—	3	—	—
入学許可 予定者数	I	102	30	—	56	13	—	—	—	3	—	—	
合格率	I/H	64.6	49.2	—	87.5	43.3	—	—	—	100	—	—	
総 計	入学許可予定者	10,228	6,776	440	956	501	159	80	40	37	40	40	79
	実入学者数	J	10,225	6,774	440	956	500	159	80	40	37	40	79
	過不足	J-A	-95	-26	0	-44	-20	-1	0	0	-3	0	0
	定員充足率		99.1	99.6	100	95.6	96.2	99.4	100	100	92.5	100	98.8
前年度定員充足率		99.4	99.8	99.8	96.8	97.3	100	100	100	100	97.5	100	

\* 学校出願の数を除いた数。

\*\* 学校出願のため、普通科と専門学科を合わせて次の別表に示す。

\*\*\* 学校出願のため、学科ごとの合格率は算出できない。

別表 学校出願

項目	学科	普通	理数	普通	体育	普通	美術
一般 選 抜	学力検査定員	A-(C+E)	420	40	256	10	120
	確定出願者数		621		300		142
	受検者数	D	618		300		141
	入学許可 予定者数	E	420	40	256	10	120

### 3 学力検査における出願変更者数について

表5は、学科別の出願者数および出願変更者数等を示したものである。

出願者数8,177人に対し、出願変更者数は631人(昨年度642人)、出願変更率は7.7%(昨年度7.7%)となり、確定出願者数は8,125人であった。

各学科別の出願変更率は、農業学科の11.0%が最も高く(昨年度の最高は工業学科が14.0%)、次に、商業学科および総合学科の9.6%であった。

表5 学科別の出願変更者数

(昨年度)

項 学 科	学 力 検 査 定 員	出 願 者 数 A	出 願 変 更 者 数 B (第1志望を 取り下げた数)	出 願 変 更 率 B/A(%)	確 定 出 願 者 数 C	出 願 変 更 者 数	出 願 変 更 率 (%)
* 普 通	4,323	5,027	386	7.7	4,973	341	6.8
農 業	231	272	30	11.0	267	36	12.0
工 業	657	538	28	5.2	570	83	14.0
商 業	290	260	25	9.6	262	21	7.3
家 庭	110	124	10	8.1	120	5	4.0
音 楽	20	17	0	0.0	17	0	0.0
福 祉	20	17	1	5.9	20	—	—
国 際	43	29	1	3.4	48	1	2.4
総 合	719	812	78	9.6	785	49	6.1
学 校 出 願							
普通・理数	460	637	40	6.3	621	45	7.7
普通・体育	266	296	21	7.1	300	26	8.7
普通・美術	130	148	11	7.4	142	18	11.1
普通・福祉	—	—	—	—	—	17	11.7
合 計	7,269	8,177	631	7.7	8,125	642	7.7

\* 普通科は学校出願を除く

### 4 学力検査における面接・作文・実技検査について

点数化する面接を実施した学校は全て全日制の課程で、愛知高等学校、北大津高等学校(国際文化科)、湖南農業高等学校、八日市南高等学校の4校のべ9科(昨年度4校のべ9科)であった。また、受検生の関心・意欲をみるための点数化しない面接を実施した高等学校は、全日制の課程で、甲南高等学校、安曇川高等学校、信楽高等学校、石部高等学校の4校のべ7科(昨年度5校のべ8科)、定時制の課程では、大津清陵高等学校の昼間部・夜間部であった。実技検査を実施した学校は、草津東高等学校(体育科)、栗東高等学校(美術科)の2校のべ2科(昨年度3校のべ7科)であった。

なお、作文については実施校はなかった。

## 5 学力検査について

### (1) 出題の方針等

各教科の学力検査問題は、平成15年度入試から全日制と定時制の課程が同一日程での実施となっており、本年度も同一問題で実施した。中学校学習指導要領に示された内容に基づき、単なる知識量をみるのではなく、学校で学んだ知識を基礎に、表現力や判断力・思考力をみるための設問を多くするなど、工夫を凝らして問題の作成に当たった。

国語では、様々な種類の文章を素材にして、内容を的確に読み取る力、考えを適切に書き表す力、言語事項に関する力をみることをねらいとした。

数学では、数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則を理解しているかをみるとともに、事象を数理的に考察する力や見通しをもって数学的に表現、処理する力をみることをねらいとした。

社会では、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して考察し、公正に判断する力や適切に表現する力をみることをねらいとした。

理科では、身のまわりの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然のしくみやはたらきについて理解できるかをみることをねらいとした。

英語では、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を理解し、自分の考えを英語で表現するなどの実践的コミュニケーション能力をみることをねらいとした。

### (2) 配点等

配点は、各検査教科100点満点を標準とし、5教科で500点満点とした。また、記述式の問題等では、学校の状況に応じて部分点を与えるなど、採点に幅を持たせた。

学力検査実施教科の配点に比重をかける傾斜配点は、膳所高等学校理数科で数学と理科の配点を120点(5教科合計で540点満点)、水口高等学校国際文化科で国語と英語の配点を150点満点(5教科合計で600点満点)とし、草津東高等学校体育科は国語、数学、英語の3教科のうち得点の高い2教科を150点満点(5教科合計で600点満点)とした。

### (3) 検査成績

総合得点については、傾斜配点や面接を実施した学校があり、学校ごとに満点値が異なるため、全体としてのまとめは行わなかった。

各検査教科ごとの受検者の平均点は国語51.8点、数学41.6点、社会51.4点、理科44.3点、英語45.2点であった。

[ 単位制 転・編入学、通信制の課程 ]

募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

単位制の課程の昼間部で実施した転・編入学については、41人（昨年度44人）の出願者があり、定員40人に対し1.03倍（昨年度1.10倍）の倍率となった。また、通信制の課程については、定員320人のところ一次選抜では、203人の出願者（昨年度226人）に対して、203人（昨年度225人）が入学許可予定者となった。また、二次選抜では、92人（昨年度101人）が入学許可予定者となり、合計295人（昨年度326人）が入学許可予定者となった。

表6 募集定員，志願者数，入学許可予定者数等

年度	項目	一次選抜				辞退者 D	二次選抜		合計	
		募集定員 A	出願者数 B	入学許可 予定者数 C	率 C/A		出願者数	入学許可 予定者数 E	入学許可 予定者数 F=C-D+E	募集定員 との差 F-A
平成 21 年度	転 編 入	40	41	40	1.00	0	—	—	40	0
	通 信 制	320	203	203	0.63	0	92	92	295	-25
平成 20 年度	転 編 入	40	44	40	1.00	0	—	—	40	0
	通 信 制	320	226	225	0.70	0	101	101	326	+6



## 国 語

### 1 出題方針

中学校学習指導要領（国語）に示された内容に基づき、国語を適切に表現し正確に理解する基礎的な力をみるようにした。

また、様々な種類の文章を素材にして、内容を的確に読み取る力、考えを適切に書き表す力、言語事項に関する力をみるようにした。

### 2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「共生や日本人の自然観をテーマにした素材文はどちらも魅力ある文章で、受検生に読ませたい内容のものであった。」「季節を感じる機会が少なくなっている現代の子どもたちが日本の四季の移ろいの魅力に目を向ける契機となる良文であった。」「設問の内容についても、基本方針に沿ってよく工夫されており、多様な国語力をみるのにふさわしいものであった。」などの意見があった。

各問いについては、作文に関して「資料を読み取り分析する力を問う出題で、2つの資料が示されたことで、解答の幅が広がった。」「子どもたちの読書の推進は、社会的にも注目されているテーマであり、また、表現力をみるのに適した設問であった。」などの意見があった。

### 3 解答の分析

□において、漢字の問いについては「前提」の書きの正答率が低い以外は良好であった。また、適切な接続詞を選ぶ問いについては正答率が76.0%、文章全体の内容を読みとり答えを選ぶ問いについても正答率が62.1%とおおむね良好であった。しかしながら、語の係り受けの問いについては47.7%とやや低く、指示語のさす内容を条件に合わせて答える問いの正答率は17.6%、また文章全体の要旨をとらえ、自分でまとめて記述して答える問いの正答率は7.3%と低かった。このことから、文章に親しむ態度の育成を今後も一層進めるとともに、語と語の関係をとらえながら、内容を丁寧に読み取る力や読み取った内容を簡潔にまとめて表現する力を身につけさせる必要がある。

□の作文では、自分の考えをまとめ、適切に表現する力を求めた。受検生にとっては身近なテーマであったが、資料を分析し、それをふまえて考えをまとめることができていない解答が多く、正答率も19.8%と低かった。このことから、客観的な資料をもとに考えたことを簡潔にまとめ、相手に正しく伝わるよう適切に表現する力のさらなる育成が望まれる。

□において、漢字の問いについては、読みは3問とも96%以上の正答率であり、書きも「例」が89.2%、「準備」が76.1%と良好であった。また、冬の季語を選択する問いについても、正答率が64.0%とおおむね良好であった。一方、連体詞を見分ける問いについては、名詞を修飾していることがわかれば容易な問いであったが、正答率は46.0%にとどまった。特に、筆者が主張していることの理由に当たる部分を読み取って制限字数内で記述することを求めた問いについては正答率が7.3%と低く、言葉のきまりに関する基礎的な力や書かれていることを正確に読み取り的確に表現する力のさらなる育成が求められる。

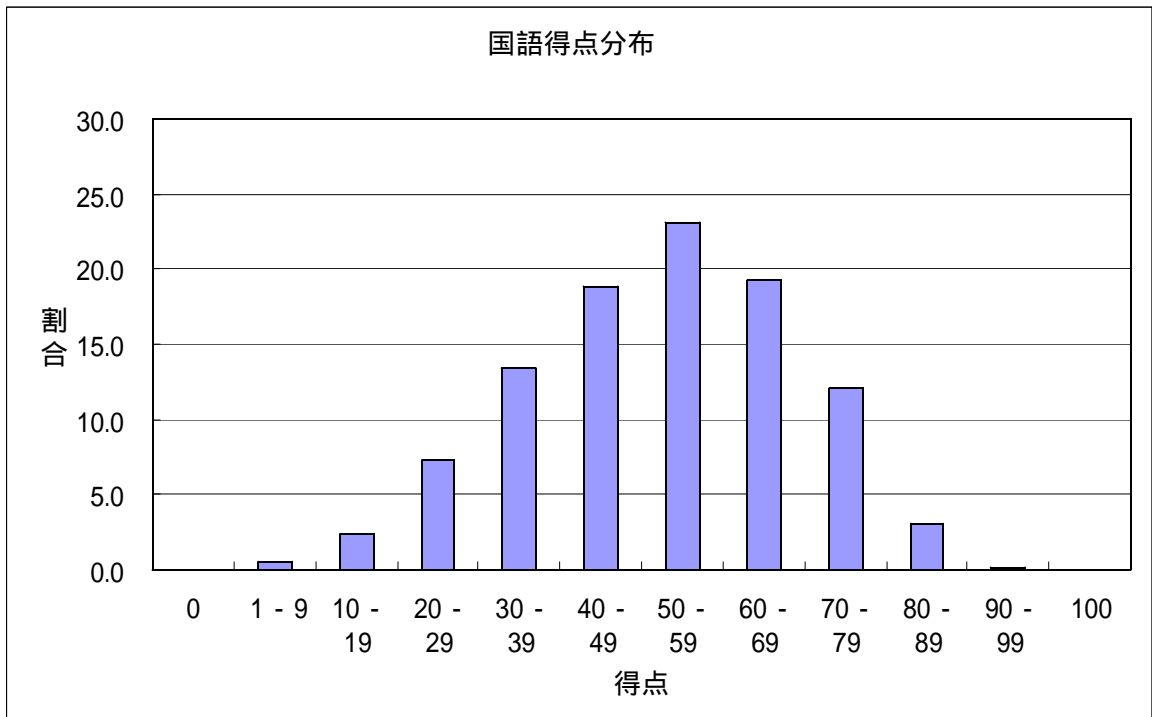
全体として、書かれた内容を理解する力についてはおおむね身につけている。しかし、自分が理解した内容をもとに考えたことを、根拠を明確にして簡潔にまとめ、適切に書き表す力についてはさらなる育成が望まれる。

国 語

問題区分		正答率 (%)
㊦	1	39.5
		72.8
		61.5
		97.7
		97.2
	2	47.7
	3	76.0
	4	17.6
	5	62.1
	6	7.3
	㊧	19.8

問題区分		正答率 (%)
㊦	1	89.2
		97.2
		96.5
		76.1
		96.2
	2	46.0
	3	64.0
	4	11.2
	5	42.0
	6	7.3
	7	15.1

年 度	平均点	標準偏差
平21 (100点満点)	51.8	16.7



# 数 学

## 1 出題方針

中学校学習指導要領（数学）に示された内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえながら、数学的な見方や考え方ができるかをみるようにした。

また、数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則を理解しているかをみるとともに、事象を数理的に考察する力や見通しをもって数学的に表現、処理する力をみるようにした。

## 2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「解きやすい問題で、受験生の力をみるのに適当であった。」「細部にわたってよく練られた良問が多かった。」「日常生活において、数の取扱いや数学が果たす役割の理解を深めさせ、数学的な見方や考え方のよさを認識させようとする出題の意図が随所にうかがえた。」「身近な題材を用いて空間をイメージさせる問題が新鮮であり、興味深かった。」「身近な素材に潜む数学がうまく引き出されており、代数的問題・幾何的問題のバランスも非常によい。」「問題文が簡素化されていて、以前よりも読みやすくなっていた。」「問題文を理解する上で、付随する内容を考える必要があり、思考の要素が多すぎるのではないか。」などの意見が寄せられた。

大問①、②については「基礎的・基本的な学力をみるのに適当。」「座標平面と確率を融合させた良問。」「椅子を図形化し、立体的にとらえさせる問題で、日常生活での疑問を取り上げていて面白い。」「買い物に行く動きをグラフ化し読み取る問題で、実際に数学を生活の中で使っていく良い例となる。」「分かりやすい設定の中に数学的内容が盛り込まれており、良問。」などの意見があった。また、大問③については、「身近な素材を用いて立体を展開したり、逆に平面から立体図形を考えさせるなど斬新で、幅広く数学的な処理能力をみる良問。」「立体の展開の仕方が単純でなく、また平行四辺形をみる向きを変える工夫もあって興味深い。」などの意見があった。

## 3 解答の分析

①の数と式、2次方程式、円周角の定理の基礎的・基本的な問題については正答率が比較的高く、よく理解できていた。座標平面における確率や三角形についての問題、回転式の椅子を素材とした問題は、数量関係と図形の領域の学習内容を関連付けて考察したり、日常生活の中から数学的な要素を取り出し、空間図形について考察する内容であったが、正答率が低かった。日頃の学習で、数学的な見方や考え方、空間図形の構成要素（辺・頂点・角）の位置関係や大きさなどを把握する能力をつけることが求められる。

②の買い物に行くという実生活に関連した事柄を取り扱った問題では、時間と道のりの関係を表したグラフを用いて関係式や時刻を求める内容であったが、(1)以外は正答率は低かった。与えられた条件を的確にとらえ、グラフを読み取り具体的な場面と結びつける力、事象を数理的に考察する力の育成が望まれる。

③のトイレットペーパーの芯と平行四辺形を素材にした問題では、与えられた条件をもとに点の位置を作図する設問で比較的正答率が高かったものの、平行線の錯角の性質を使って三角形の相似を証明したり、平行四辺形から2種類の円柱の体積を考察する設問において正答率が低かった。与えられた図形の性質について直観的にとらえたり、見通しをもって論理的に思考し、推論の過程を的確に表現する力の育成が求められる。

全体として、数や式の計算、方程式、関数、図形の計量等の基礎的・基本的な事項や概念についてはおおむね理解できているといえる。今後は、断片的な理解や知識の習得にとどまることなく、課題解決することをとおして数学の各領域の内容を関連付けて活用する力を高めるとともに、数学的な思考力・判断力・表現力を育成することが望まれる。

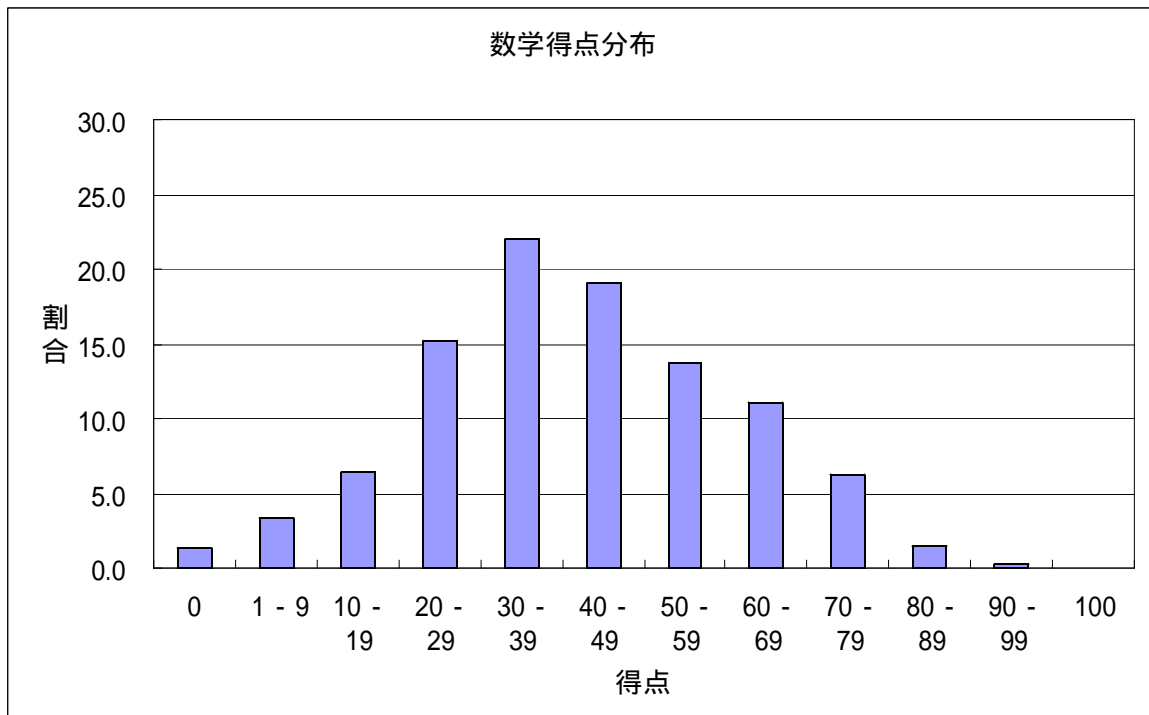
## 数 学

問題区分		正答率 (%)
1	(1)	94.6
		87.2
		87.5
		83.5
		71.3
	(2)	82.4
	(3)	49.7
	(4)	28.1
		18.2
	(5)	1.5

問題区分		正答率 (%)
2	(1)	56.7
	(2)	16.4
	(3)	14.4
	(4)	3.4

問題区分		正答率 (%)
3	(1)	29.6
		19.5
	(2)	45.4
		3.4

年 度	平 均 点	標 準 偏 差
平 21 ( 100点満点 )	41.6	18.9



## 社 会

### 1 出題方針

中学校学習指導要領（社会）に示された内容に基づき、地理、歴史、公民の三分野について、基礎的・基本的事項の理解をみるとともに、多面的・多角的な見方や考え方ができるかをみるようにした。

また、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して考察し、公正に判断する力や適切に表現する力をみるようにした。

### 2 問題に対する高等学校からの主な意見

「単なる知識を問うだけでなく基礎的・基本的理解とともに、資料を活用して解釈、表現する力をみることができ問題が多くあった。」「地理的分野においては社会生活に必要な地理的認識を問う基本問題であり、エネルギーの割合や人口などのデータを用いて考察させる良問であった。」「歴史的分野は、古代から現代までの土地制度・農業を中心とした歴史的事象について、資料の読解力に加え、因果関係を正しく理解したうえでないと答えられない問題もあった。」「公民分野では、職場体験という教育活動にそった出題であり、問いを解きながら自らの将来を考えることができる良問であった。」「学習指導要領で求められている力を試そうとする問題が多くみられ、地理、歴史、公民の三分野の出題バランスも適切であった。」などの意見があった。

### 3 解答の分析

①は、略地図をもとに、世界の諸地域と日本の位置を関連づけながら、緯線、経線、時差などの基本的事項の理解をみるとともに、グラフ、表を正しく読みとらせて、エネルギー、資源、気候、府県の人口と特色などについて考察し、正しく判断する力や適切に表現する力をみる問題であった。国境や内陸国といった国土の特徴やエネルギーについての問題では正答率が50%以上であり、資料から読みとるための基礎的・基本的な力はおおむね身につけている。しかし、地図上から緯線を選ぶ問題や都市の位置を選ぶ問題では、正答率が20%台にとどまっており、主な国々の位置などを地球儀や地図から正確に読みとる力を育てていく必要がある。

②は、わが国の土地制度と農業の移り変わりについて、古代の土地や税のしくみ、兵農分離、農地改革などを取り上げて、歴史的事象の特徴を的確に判断する力や適切に表現する力をみる問題であった。土地制度や農村のようす、時代の特色についての問題では正答率が50%以上であり、基礎的・基本的な事項の理解はほぼできている。しかし、江戸時代の農民の工夫や地租改正について説明する問題では正答率が20%台にとどまっており、資料を活用して考察し、適切に表現する力を育てていく必要がある。

③では、中学校で経験している職場体験をもとに、国際機関、経済、消費者保護、人権などについての基本的事項の理解をみるとともに、労働問題や少子高齢社会に関する資料をもとに考察し、正しく判断する力をみる問題であった。正答率が50%を超えたものが多く、このことからおおむね公民的分野における基本的事項の理解ができていることがうかがえるものの、今後、さらに現代の社会事象と自身の体験との関連を考えさせる指導が望まれる。

全体的に、地理、歴史、公民の各分野における基礎的・基本的事項についてはおおむね理解できている。しかし、資料からさまざまな情報を読みとり、適切に表現する力を身につけさせることが必要であり、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、社会事象を多面的・多角的に思考・判断して表現する力を育成する指導が望まれる。

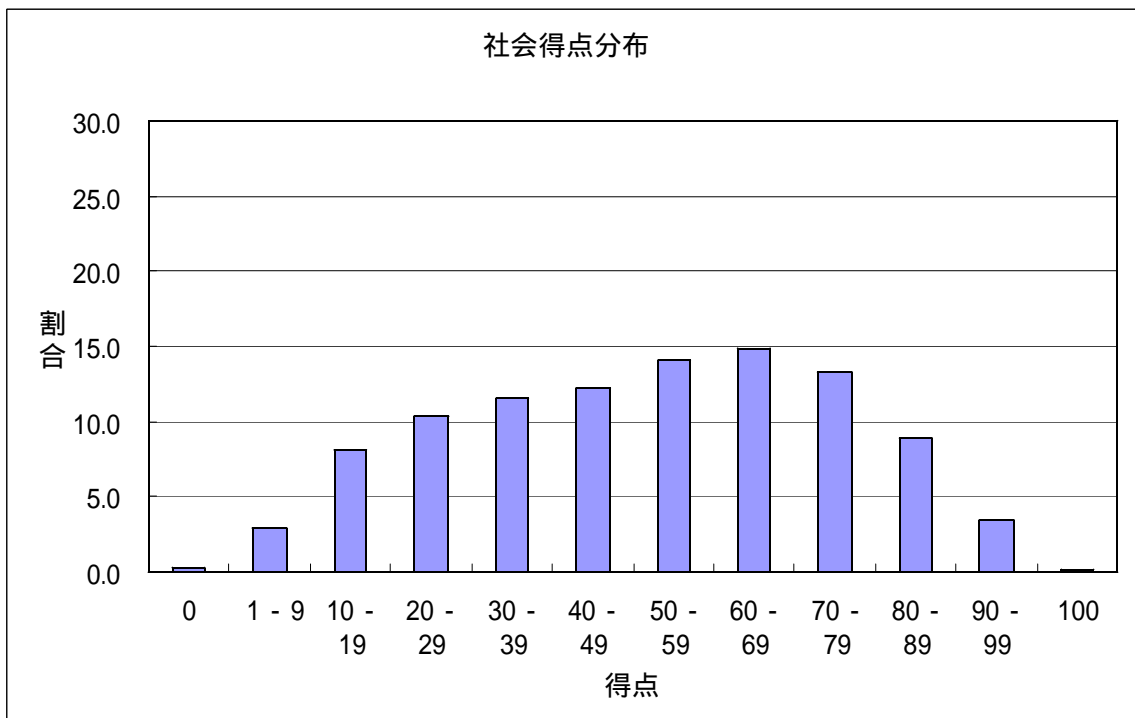
## 社 会

問題区分		正答率 (%)	
1	1	(1)	21.5
		(2)	70.1
		(3)	80.7
		(4)	45.3
	2	(1)	26.1
		(2)	50.9
		(3)	54.2
		(4)	29.2
	3	(1)	35.1
		(2)	36.6

問題区分		正答率 (%)	
2	1	(1)	56.1
		(2)	25.5
	2	(1)	52.8
		(2)	32.7
		(3)	25.3
	3		23.4
	4	(1)	25.8
		(2)	39.4
	5		57.5
			53.9
			64.0
			60.3

3	1	(1)	57.6
		(2)	58.7
	2	(1)	71.3
		(2)	内容
	理由		59.4
	3	(1)	52.5
(2)		19.2	

年 度	平均点	標準偏差
平21(100点満点)	51.4	23.5



## 理 科

### 1 出題方針

中学校学習指導要領（理科）に示された内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえながら、自然の事物・現象について科学的な見方や考え方ができるかをみるようにした。また、身のまわりの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然のしくみやはたらきについて理解できるかをみるようにした。

### 2 問題に対する高等学校からの主な意見

「身のまわりの事象、現象について、科学的な見方や考え方ができるかを問う工夫が見られた。」「観察、実験を通して、資料やデータから科学的な思考力を問うことができるよう配慮された問題であった。」「物理、化学、生物、地学の各分野からバランスよく出題されており、各問とも実験結果から考察したことを記述したり、作図したりすることで、自分の考えを表現する力を問うような工夫がなされていた。」などの意見があった。

### 3 解答の分析

①では、BTB溶液の色の变化から植物が光合成をしていることやヘモグロビンの性質を問う問題については正答率が高く、光合成や血液の働きに関する基礎的な事項はおおむね理解できているといえる。しかしながら、観察結果から血液の流れる方向を考察する問題や、酸素が水に少し溶けることから組織液の働きを考察する問題では正答率が低い。今後さらに観察と実験の結果を結びつけて考察し表現する力の育成が望まれる。

②では、地層の重なり方からたい積した順序を問う問題や粒の大きさとたい積する場所の関係を問う問題については正答率が高く、地層の重なり方の規則性や地層のでき方に関する基礎的な事項はおおむね理解できているといえる。しかしながら、柱状図をもとに地層を対比し、地層の連続性や広がりや、実験結果を考察し記述する問題では正答率が低い。今後さらに野外観察や実験等の体験的な活動をさらに多く取り入れ、その結果を考察して表現する能力を育成していくことが望まれる。

③では、マグネシウムが酸化されて酸化マグネシウムになることや、燃料電池が化学エネルギーを電気エネルギーに変換する装置であることなど、酸化反応やエネルギーの変換に関する基本的な事項を問う問題については正答率が高い。このことから、酸化反応やエネルギーの変換における基礎的な事項を理解することは、おおむね達成できていると考えられる。一方、化学反応における物質の量の関係を問う問題については正答率が低く、今後は、実験結果を分析し活用していく力の育成が求められる。

④では、物体から出た光が鏡に反射したときの像の見え方や、光が屈折するとき光の進む向きが変わることを問う問題など、反射や屈折といった光の性質に関する基本的な問題は正答率が高く、おおむね理解できているといえる。一方、反射角の大きさを求めることや、光が反射、屈折するときの道すじを図示すること、およびそのときの像の見え方を考察することなどの問題で正答率が低く、今後は実験結果を的確に図などで表現する力や考察する力を育成することが求められる。

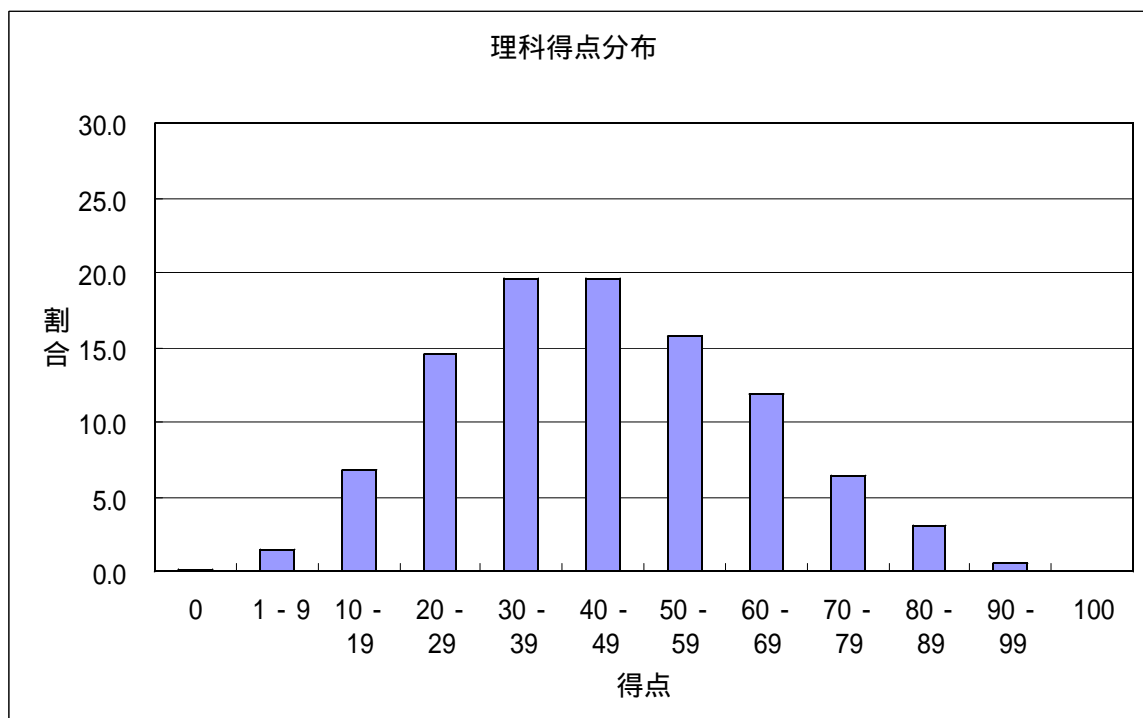
全体として、個々の基礎的・基本的な事柄や概念についてはおおむね理解できているといえる。しかし、事象を科学的に考察し認識する力、およびその考察や認識を的確に図や言葉で表現する力はやや弱いと考えられる。今後も自然や日常の中に見られる事象に対して興味・関心をもち、基礎的な知識を基に科学的に考え、表現できる能力の育成が求められる。

# 理 科

問題区分		正答率 (%)	
1	1	84.0	
	2	23.2	
	3	56.2	
	4	記号	51.1
		理由	20.6
5	24.1		
2	1	78.0	
	2	36.3	
	3	59.4	
	4	5.9	
	5	52.0	

問題区分		正答率 (%)	
3	1	物質名	79.8
		化学式	50.3
	2	79.3	
	3	36.5	
	4	31.8	
4	5	5.0	
	1	40.2	
	2	44.7	
	3	74.9	
	4	13.9	
5	28.1		

年 度	平均点	標準偏差
平21 (100点満点)	44.3	18.7





## 英 語

### 1 出題方針

中学校学習指導要領（外国語）に示された内容に基づき、英語を理解し、英語で表現する基礎的な力をみるようにした。

また、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を理解し、自分の考えを英語で表現する力などの実践的コミュニケーション能力をみるようにした。

### 2 問題に対する高等学校からの主な意見

「非常によく練られており、英語を読み（聞き）取る力をみるのに良問である。」

「中学校での既習事項を踏まえ、英語を使って表現させること等、コミュニケーション能力をみる良問であった。」「題材は適切であり、質が高いと思われる。」「各問題の難易度は幅広く、適切であった。」などの意見があった。

### 3 解答の分析

①の聞きとり問題では、絵を見て答えを選ぶ問題の正答率や、初歩的な会話の流れや内容を聞き取る問題の正答率が高く、中学校の授業で英語を「聞く・話す」活動に積極的に取り組ませている成果が現れている。しかし、具体的な内容を聞き取ったり、前後の流れから内容を理解し、自分の考えを英語で表現したりする問題では正答率が低かった。日頃から、具体的なことがらを理解させたり、話し手の考えの中心となる部分をとらえさせる指導を一層充実することが望まれる。

②は、生徒が書いた英語の日記とそれに対するALTの先生のコメントを素材にした問題である。空所に適切な語を補ったり、大まかな流れや大切な部分をとらえて的確に読み取る力を問う問題の正答率が高いが、英語で適切に表現する力などを問う問題の正答率が低かった。書き手の意向を理解して英語で適切に応じる機会を与えたり、実際に英語で日記を書かせるなどし、言葉のもつ仕組み、意味、その働きがわかるようになるよう指導することが必要である。

③は、海外研修を終えて帰国する生徒とお世話になった先生の対話文を素材に、英語の理解力や表現力などを総合的にみる問題である。日常会話における適切な応答表現を選択肢から選ぶ問題や、会話の流れを把握しているかどうかをみる問題では、50～60％程度の正答率であったが、文脈に沿って内容を正確に把握して英問英答したり、場面や状況に応じて英語で適切に表現したりする力をみる問題の正答率は低かった。「読むこと」についても、単なる内容理解にとどまらず、書き手の意向を理解する言語活動を取り入れた指導を充実することが必要である。

全体的には、初歩的な英語を聞いて話し手の意向を理解する力や、英文を読んで大まかな流れをつかむ力は定着している。実践的コミュニケーション能力の基礎を養う観点から、音声を的確に聞き取り、相手が伝えようとしていることに注意しながら意味を理解させることが必要である。

また、「書くこと」の指導においては、自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように意識させることが大切である。教師や教科書などから提供される話題や題材、身の回りの出来事などについてだけでなく、生徒が自分で考えたり感じたりしたことを積極的に書いて表現できる力の育成が望まれる。

英 語

問題区分		正答率 (%)	
1	《その1》	1	95.3
		2	88.6
		3	88.5
	《その2》	1	82.4
		2	67.3
		3	56.8
		4	32.6
	《その3》	1	9.5
		2	48.3
		3	19.4
		4	41.9
	《その4》		41.9
	2	1	66.7
2		23.4	
3		15.4	
4		64.7	
5		26.6	
6		5.9	

問題区分		正答率 (%)	
3	1	11.4	
	2		57.6
			37.6
	3	61.3	
	4	36.7	
	5	(1)	59.4
		(2)	4.8
	6	10.2	
	7	16.2	
	8	13.2	
	9	55.3	

年 度	平 均 点	標 準 偏 差
平21 (100点満点)	45.2	20.6

